

高大連携講座

ハリヨ研修 1年理数科



(目的) ハリヨの調査研究活動及び環境保全活動を行い、環境保全の大切さ、自然環境と人間生活の関わりについて考える。
 (日時) 令和5年6月15日(木) 8:30~15:30
 (場所) みかげの森・プラザしもたど、海津市南濃町津屋清水池周辺
 (講師) 岐阜協立大学 森 誠一 教授 (淡水魚研究の第一人者)
 (対象) 理数科1年生33名、理数科ハリヨ班3年生5名、2年生4名

本校理数科では、2006年6月より南濃町津屋清水池周辺のハリヨの調査研究及び保護活動を行っています。ハリヨは特有の行動様式があり、現在では西濃と滋賀県東部にしか生息しない希少種です。研修場所の南濃町津屋清水池は、その環境を含めて、国の天然記念物に指定されています。ハリヨの継続研究を行っている研究班の先輩も現地に同行し、後輩に伝えています。

森教授の講義

西美濃における「郷土財」として湧水魚ハリヨ

1. 西美濃ってどんなところ？
2. ハリヨってどんな魚？
3. “教育財”としての保全対象



清水池周辺

ハリヨの生息地で地域の地理的な特徴などについて研修



濃尾平野



津屋川堤防から山側

ハリヨ観察

先輩から毎月行っている調査の説明

調査研究は海津市の許可を得て行っています。



個体調査

ハリヨは水温 15°C で生息しているので、手を流水で良く冷やしてから大きさを測定しています。



追い込み作業



調査活動

事前に学習した「底生生物による水質調査」を実施

画:理科科7期生



先輩と一緒に生物確認



リーフレット配布

10グループに分かれ今年は433枚を個別配布



近隣の小学校はハリヨ研究班が配布

研究班3年生
本日最終活動

配布終了報告

「挨拶はできましたか？」
「はい。住民の方からも話しかけられました。」



研究調査では地域の皆様にご理解とご協力いただいております。

2023年

清水池のハリヨ調査

岐阜県立大垣東高等学校 理数科ハリヨ班

【ハリヨ班とは】

- ・大垣東高校理数科の課題研究班です。
- ・月2回清水池でハリヨの生態調査を行っています。
- ・今年で18年目を迎えます。

【ハリヨとは】

- ・トゲウオ科イトヨ属の淡水魚。
- ・常に水温 20℃以下の環境に生息。
- ・**絶滅危惧 IA 類**に属しています。
→イリオモテヤマネコやトキなどと同じ部類。
- ・オスが巣を作り子育てをします。

背と腹に針がある

繁殖期にオスが
婚姻色を帯びる



鱗がなく鱗板がある



【清水池とは】

- ・トゲウオ科の**世界最南端、最大級**の生息地のひとつです。
- ・湧水帯があるため、水温が約 16℃を保っています。
- ・**生息地全体が国の天然記念物**に指定されました。
- ・2022年2月に新しい池がつけられました。
2022年8月にハリヨの移入が確認され、
2023年3月には**巣も確認**されました。



ハリヨ班の活動紹介

《個体数調査》

ハリヨの個体数の変化や体長、性成熟度を調査するために池と水路のハリヨを捕獲し記録しています。



↑個体数調査

《底生生物調査》

ハリヨの餌となる生物を調査するために池や水路の土を採取し、生物の種類や数を記録しています。



←底生生物調査

《水温気温調査》

清水池周辺の気温や水温を計測しハリヨの生息に適しているか調査しています。

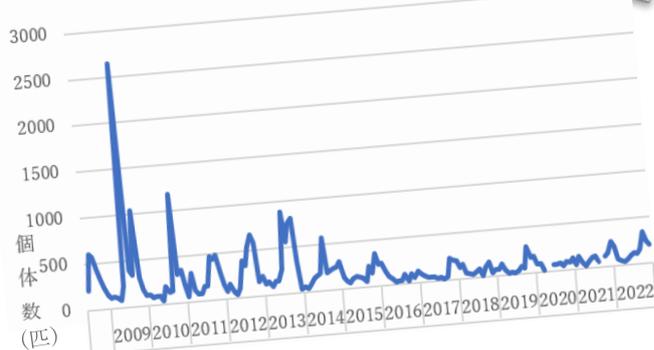


営巣調査→

三地点合計個体数

《営巣調査》

春の繁殖期に営巣数の確認と、ハリヨのオスがどのような行動をしているのかを調査しています。



他にも**堆積物調査**や、**胃の内容物の調査**などを行っています。

現状と今後の展望

- ・ 2022年度の調査で3地点年間総捕獲数が2021年度より**200匹以上増加**し、**営巣数も増加**していました。特に営巣数が全地点で**100カ所以上確認**されました。**今後のさらなる個体数の増加が期待**されます。
- ・ 堆積物量の増加や、わずかながらの水温の上昇など清水池周辺の**環境が変化**しています。だからこそ、**今後も継続的な調査が必要**です。

今後もハリヨ班はハリヨの保全のために調査活動を続けていきます。
ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。